

# 聴く

新潟いのちの電話だより

2019.6

No.141



相談電話

**(025) 288-4343**

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp>

## 続けることの尊さを学ぶ

野上信子

こんにちは。新潟いのちの電話後援会の野上信子です。20年前、会社の上司に半ば強制的に後援会のお手伝いをするよう命じられて以来お世話になっています。

その頃は40代半ば、折しも姑が病気で入退院を繰り返しており、仕事と家庭の両立で必死に戦っていました。しかも思春期真っ只中の子どもたちと真剣に向き合うあまり、何とも粗々しい日々の連続でもありました。とてもボランティアに向ける時間も気持ちも持てないと入会をお断りしようと思いました。しかし一方では、これまで自分本位の生活で人生半ばまで過ごしていることにどこか後ろめたい気がして、新しいことをはじめてみよう、新たな出会いも楽しいかも知れないと思い直しました。

それでも現役の間は年に一度のチャリティーバザーのお手伝いが精一杯でした。先輩方は自分の持てる力をおしみにく持ち寄り、手作りバザーをまさに人海戦術で成功させる、そのパワーと粘り強さとイキイキ働く姿に頭が下がる思いでした。何も強制しない、誰も非難しない、できる時にできる人が力を貸してくれれば良い。そんな大らかな雰囲気はずいぶん救われました。

一昨年65歳でようやくフリーになり、これからはゆっくり丁寧に生きようと。念願の着付け教室に通い、バスツアーの車中で昼ビールにほろ酔い、朝のお茶も好きな料理もゆっくり時間をかけて…。そんなことを考えていた矢先に後援会の事務局長になって欲しいとお話をいただきました。今度は迷うことなく喜んでお引き受けしました。しかも同じ汗をかくなら楽しく全力でやろうと。

後援会は新潟・長岡・上越(有沢栄一支部長ご逝去により4月末で解散)・下越支部があり各々独自の活動していますが、目的は一緒に社会福祉法人新潟いのちの電話の活動支援と広報です。無償のボランティアによる365日、24時間体制の電話相談が継続できるよう、バザーやお茶会ははじめ各種イベントを開いて収益金を寄付することや、ご寄付をしてくださる継続会員様の加入促進や広報活動に努めています。

中でも特筆すべき上越支部は、平成4年11月発足以来、有沢栄様ご夫妻はじめ支部のみなさまに長い間大変お世話になりました。4月7日上越支部最後の一大イベント「第27回チャリティー茶会」が満開の桜の下、例年の倍以上のお客様が参加され盛大に行われました。私は27年の長きにわたる支援活動の尊さを目の当たりにして、驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。まさに継続こそ力の源、息の長い活動が出来るよう今年もみなさまと一緒に楽しく頑張りましょう。

(新潟いのちの電話後援会事務局長)

## ある日の相談室より

ある日の昼下がりでした。

受話器の向こうからはテレビの音が聞こえていますが、人の声はありません。こちらから問いかけてみると、少し間をおき、男性の声で「DVで離婚した…」とひと言だけです。DVで離婚、DVで離婚…と、私の頭の中は、同じ言葉ばかりが回っています。やがて、交際していた女性の妊娠をきっかけに結婚したこと、経済的な理由から、妻の家族と同居を始めたことなど、ポツリポツリと話してくれました。

会社では、上司と折り合いが悪く、同僚からもいじめを受け、苦しいばかり。残業を終えて帰宅すると、家族の夕食は終わっており、台所の片隅でひとり食事をかき込み、お風呂も一番最後です。けれど、家族には何も言ったことがなかったということでした。

ないがしろにされる情けなさ、どこにも自分の居場所がないやるせなさ、そんな中でも子どもに恵まれ、結婚生活も何年かたった頃、妻のトゲのある言葉から、今までの不満が爆発し、酔った勢いで暴力をふるってしまったのだそうです。

暴力も酒量も日に日に歯止めがきかなくなり、気がつけば離婚。仕事も辞め、今はひとり、福祉の支援を受けながら、精神科の治療中とのことでした。

「暴力したくてしたわけじゃない…」と、弱々しくつぶやきます。どこで何が違ってこうなったのか、いまだにわからず苦しんでいる様子でした。

家族それぞれ、相手を大切に思い、少しの思いやりと、自分の言葉で気持ちを伝えることができたら…。掛け手の回復を祈りつつ、電話を終えました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は  
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。  
電話番号 0120 - 783 - 556

## 平成から令和へ

谷川則子

新しい元号『令和』が始まりました。新しい時代の始まりを感じ、厳肅な心持ちになるとともに、これまで歩んできた『平成』が自分にとってどんな時間だったかな…とあらためてふり返ったりしている今日この頃。みなさんにとって、この『平成』はどんな時間だったでしょうか？

『平成』の始まり、昭和64年1月は私の大学生活最後の冬休みが終わろうとしている時でした。ですから、私にとっての『平成』は、社会人の一員として『大人』の仲間入りをさせてもらった歴史にほかなりません。その中で多くの人たちと出会い、学び、そして大切な方との悲しい別れも経験し、学生時代とはまったく違う時間を味わってきたな…とつくづく感じます。

今でもついこの間のように感じる平成の初め。職場の大先輩たちからは『失敗を恐れず自分でやってみること。失敗の中にこそ学ぶことがたくさんある』、子育て中の幼子からは『子どもにもその子の世界がある。それをともに味わい、相手を信じて待つこと』など、まだ若かった私が周りの世界とどう向き合えばよいかをひとつひとつ教わりながらやってきた30余年でした。そしてこれらの学びは今でも色褪せずに私の大きな支えとなって根づいていることを実感します。今では、その幼子が新米社会人、私はあの時の大先輩と同じ年頃に。時間は確実に流れてきたんだな…と、この節目の時にあらためて感じているところです。

ここ最近では時代の風潮もあり、時間の流れがどんどん速くなっていますね。『今』というかけがえのない時間を大切に、それぞれの新しい時を紡いでいきましょう。

(臨床心理士)



## お知らせ

### 第37期 電話相談員養成講座開講

4月25日、2019年度の養成講座が開講しました。今年度は26名と多くの受講者が参加され、1年間の研修に取り組みます。体調に留意され、無事に修了することを願っています。次の募集は12月からとなります。今後ともご支援をお願いいたします。

### チャリティーバザー (新潟いのちの電話後援会主催)

日時 9月22日(日)11時から  
会場 新潟市総合福祉会館

毎年好評をいただいているチャリティーバザーを、今年も開催いたします。販売する物品のご寄付は、8月から受け付けいたします。どうぞ今年もご協力ください。新潟市内の方は、ご連絡をいただければ受け取りにうかがいます。



### 会費納入のお願い

毎年6月に、会費納入のお願いをしています。

いただいた会費は、センターの維持費、相談員の研修費など、いのちの電話の活動に使わせていただきます。ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

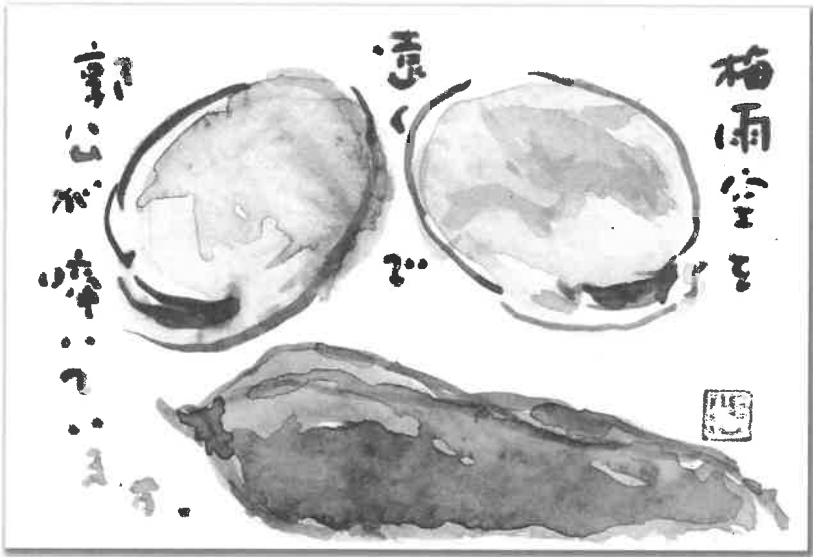


2019年6月25日発行

#### 社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館  
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677  
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp>

6月の絵手紙



Sakurai Kouzi